

・・・雨でも休まず、223回、224回・・・

### 「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・ 定例活動1、10月 6日(第一土曜日); 小原本陣の森・担い手育成、技術向上  
経路マーキング、午後は、川崎NFの準備。  
参加費400円
  - ・ 定例活動2、10月21日(第三日曜日): 若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動  
参加費400円
- ・ 初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ
  - ・ 服装: 汚れても良い服装、着替え、長袖、夏は黒色を避ける、滑らない足元
  - ・ 持参品: 成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、食器(碗・箸)飲料水
- ・ 注意事項: 危険管理・救急体制: 森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。
- ・ 広報活動1、10月 7日(第1日曜日): 第4回ネイチャーフェスティバル(別紙に案内)  
後援: 神奈川県・山梨県・川崎市・相模原市
  - ・ 広報活動2、10月20日(第3土曜日): 相模原の自然を考えるシンポジウム  
場所: 相模原環境情報センター、13時~。

### 緑のダム北相模の目指す“森づくり”

機会あるごとに訴えています。当会は、FSC(森林管理協議会)の思想・手法に共鳴して行動を共にしています。その思想・手法とは何かと言うと「豊かな森づくりのための10の原則、56の基準」を具現化すること即ち、「環境・社会・経済が矛盾せず融合・調和する」森づくりです。当会が具体的にどのように実践しているかは先月、「市民の森づくりが地球を救う:NPO 緑のダム北相模の森づくり三原則」と言うタイトルの冊子で報告しました。

「地球を救う」などと、身のほど知らずの大袈裟な!・・・と非難する人もいますが、森林破壊も温暖化も待った無しの状況に来て、気概だけは持ち続けたい・・・と言うのが当会:緑のダムの生き様なのです。「相模湖発:環境と経済が矛盾しない社会を創造する」ために、緑のダム北相模は、この10年、自分たちの出来ることから・・・、雨でも休まず・・・、実践行動を積み上げています。

そして11年目、それなりに辛い思いもありましたが、こうして続けて来た事を誇りに思います。今月定例活動日は、“FSC維持審査”を受けました。課題をクリアーできてホッとしています。

## 小原本陣の森・定例活動

定例活動報告 小原本陣の森：2007.9.1(土)小雨のち曇

- ・参加者：石村，斎藤，佐々木，白石，丸茂，川田(記)，(大坪・松尾は嵐山で作業)  
フォレストノバ=5名(滝澤、加藤、大平、佐枝、嶋本)
- ・作業内容：午前/小原本陣見学，小原本陣の森の状況説明。 午後/中里山への経路整備。  
(次回10月6日予定：中里山への経路整備：ただし川崎NFの準備とぶつかるので分担する)

### 概況

本日から，小原本陣の森の作業にもフォレスト・ノバの学生が参加することになった。  
生憎の小雨で，大半が小原は初めてなので雨宿りを兼ねて，小原本陣の見学をした。  
体験学校の斎藤校長の見事なガイド役に感嘆した。

一通りのガイド説明が終わった時，偶然にも，小原本陣のPRに尽力されている中里利夫さんと星野さんが登場。

小原の照手姫伝説の紙芝居を披露して頂き，また小原の歴史について説明して頂いた。( \* 註参照)  
雨も上がったので，拠点に集合した。

石村さんから小原本陣の森の状況説明があった。(石井の森の整備，中里の森の整備予定，小原町・相模原市・県が志向する小原の再興計画 等)

気が付くと，先月あれほどまでやかましく鳴いていたヒグラシが全く聞こえない，静かな森に帰っていた。小原のセミの活動は非常に限られた短い期間なのだろう(ファール佐々木談)。  
昼食は学生を加え，本日もまた石村夫人の作って下さった冷汁とナスをおいしく頂いた。

午後は本番の作業経路の整備作業を行った。  
中里山に向かう経路は，場所によっては，夏草で覆われていた。

途中の分岐点で溪流を渡る場所に，橋を掛けることにした。付近の欠頂木・溪流内の木を伐採し，架橋作業をした。

経路作り作業は，技能向上やチームワーク作りとしても，良い作業実習である。  
玉切り時の安全な足場の取り方や，油断するとどうなるかを，白石さんに身をもって指導して頂いた。学生の頑張りで見事な橋が掛かった。



架橋に使う木を運ぶ学生たち

本日の作業は，15時で終了し，作業道具類の点検をして，拠点に戻った。この経路作りは，数回必要と思われる。

15時30分，小原の町に移住する予定の鈴木さんと小原の郷で落ち合った。小原の町興しに尽くしたいとのことある。

借りる家を外から見学した。家主の永井さんが，出てこられて廻りの土蔵などの説明をして下さった。小林さんのお宅も見せて頂けたらと立寄ったが，お会いすることが出来なかったため，次の機会とした。

例によって，かどや会議には学生も参加し，大いに盛り上がった。

## 若柳嵐山の森・定例活動：森は宝庫！！

報告：伊藤 小夜子

9月、爽やかな秋の気配と、未だ暑さの残る日、百日紅（サルズベリ）の花が森の入り口に彩かに輝く。この日は、川崎ネイチャーフェスティバルのファミリーや常連の大学生・高校生・熟年・？！と幅広い層が集う。参加者52名。また、今日は国際FSC認証の森、維持審査の日。

夏休み明け、久々、“望星の森”では高校生等の姿。先月に続き、植樹した栃の木周りの草刈・手入れに頂上まで宮村教諭と学生が精を出す。森の中で“ピーン”と張り詰めた声が響く。

「J240、エバガバズミ、直径：1,9！」日大の桜井教授の声、森林資源科学科の新井沙綾香さんが記録する。森のあちこちに方形に張られた白いテープの中の樹の全部に番号付けをする。樹に張られた黄色いテープは、土に溶けるものだそうだ。アラカシ、ヒノキ、マタタビ、アマチャズル・・・などなど、色んな植物の名が次々と読み上げられて行く。マタタビの虫瘤は、ハエの幼虫が入っていて強壮剤になるとか。つくづく「森は人間・生き物に役立つ宝庫・・・なのだ！」山路ホトトギスと言う可憐な花と出合った子連れファミリーは、栗拾い、茗荷（ミョウガ）取り、森の散策。元気な子供の声が森に響く。

お昼、夏の思い出に相応しい“カレースープ & キャベツたっぷりサラダ”（野菜不足を森で補っている私。ホント、野菜たっぷり・旨味たっぷりの石村ママの何時もの料理！）。久し振り参加のシャポー吉田先生と森ベテランの石綿さんが、手馴れた手つきで料理の助っ人をしていた。



「栗拾い楽しかったあ」



チルホールドを使っての作業  
佐々木さん「お～い、もう一人手伝ってくれい」

午後、チルホールド（材巻上げ機）で来月の「川崎ネイチャーフェスティバル」出品のFSC材大木の引き出し作業に取り組む佐々木さん等、バウムクーヘンを焼くための竹串づくり、滝沢学生は三師匠（大坪・小出・松尾）に弟子入りして出品用のベンチづくりに精を出していた。お花畑班には沢山の応援が入って丸茂班長さん、涙ウルル。綺麗になったガーデンでティーパーティーとかピヤータカ、「森の音楽会」もやりたいですね。

FSC 国際認証の話が持ちあがったときにはまわりからの反応も良くなかったそうですが、実現させるんだという“気持ち”が市民活動ではじめての取得につながったのだと思います。強い意志を持つことは大切なのだと思えました。〔滝澤記〕

2005年10月に「F S C 認証林：若柳嵐山の森」に登録されて2年経過したこの日、認証機関SGSから矢口主任他2名の審査員によって第一回目の維持審査を受けた。午前は、書類審査と基地周りの視下調査。午後は、森林現場における査察。内容は以下の通り。

(文書審査)	(現場審査)
1、是正措置事項	1、基地周りの整備と会員の活動状況
イ、バッファゾーン整備	2、バッファゾーン整備状況・ヒヤリング
ロ、急傾斜地基準・作業ルールの明確化	3、寺院跡地周辺：整備前と整備後の比較観察
2、観察事項	4、望星の森状況：宮村さんへヒヤリング
イ、保持すべき訓練	5、モリタリング地：桜井教授へヒヤリング
ロ、利害関係者へのアンケート回答状況	6、杉巨木林：杉胸高直径測定、生育状況チェック：整備経過のヒヤリング
八、作業による環境影響状況報告	7、地主・鈴木重彦氏面談・ヒヤリング
二、モニタリング実施状況	

活動終了後での審査講評では、川崎での森林広報イベントなどを含む他の認証林にない多様な当会活動を高く評価してくれた。何にしても嬉しかったのは、3人の審査員の方々が当会活動に意義を理解して下さって、言葉の端々に励ましと労わりのお気持ちがヒシヒシと感じられた事であった。

審査結果：審査チームは、F S Cの原則と基準に対し、適合していることを文書・現場で確認した。「NPO法人緑のダム北相模」による森林管理認証：SGS - FM / COC 2323，が引き続き有効である事を報告する。  
SGSジャパン(株) 認証審査チーム



左上：森の状況を説明する桜井先生  
左下：オープンミーティングの様子  
右：杉胸高直径測定

・・・審査の詳細内容は、10月初旬のHP：midorinodam.jp で報告。

Forest Nova は現在 10 月 7 日の川崎ネイチャーフェスティバルの準備に大忙しです。

最近、嵐山では木工房に入り浸って 3 師匠（大坪、松尾、小出）の下ベンチづくりをしています  
が、日曜大工をしているわけではありません（笑）

『木を使うことは森を守る』そんなメッセージを私達も木のベンチを通して図のように実現したい！伝えたい！と思っています。



### 「(財)オイスカ」との交流

オイスカ：1961年設立、発展途上国24カ国を支援する国際NGO。国内にも多数の組織を持つ。森林再生・緑化もメイン活動のひとつで、わが国の森林荒廃対策にも取り組んでいる。

一昨年夏、神奈川県「水源環境の保全・再生を考えるシンポジウム」でパネラーとして同席した「財・オイスカ」の田中広報部長とは、交流が続いていたが本年5月の相模原市での若葉祭で協力をお願いしたことから、急速に行動を共に出来ないかと言う話になって去る、9月4日、臨時経営運営会を開き話しあった。課題は、国内の荒廃森林の保全・再生活動を役割分担して協働できないかと言うことで、まずは10月7日の「第四回・川崎ネイチャーフェスティバル」で協働出品しながら、お互いの接点を探し協働活動を積み上げて行こうと言う事になった。

オイスカは当会とは比較にならないほど大な規模と社会的影響力を持っているが、当会の目指す森づくりは、“経済・環境・社会”であるから、殆ど同じ方向を向いていると思う。特に森林活動では、オイスカは企業と森林を繋ぐ役割を持つ、当会は森林現場を死守すると言う事で、使命感と理想に燃える双方の気持ちが噛み合っ、良い方向に向けて一歩、踏み出したと思う。

OISCA という名称の意味

Organizaition	〔機構〕
Industrial	〔産業〕
Spiritual	〔精神〕
Cultural	〔文化〕
Advancemen	〔促進〕

人間の生存に不可欠な三要素“産業・精神・文化”のバランスを大事にした発展を世界規模で推進していくことを目的として、このように名づけられました。

## 提案：緑地保全協業バンク（仮称）

文責：緑のダム北鎌倉代表：兼松まゆみ

（前号からの続き）

指定地域だから木を切ってはいけないのではなく、切ることも伴う手入れが必要なのである。切る行為は崩れたり、枯れたりして緑がなくなる前に、縮伐や萌芽更新等で樹齢と樹高の調整を行い、倒伏し難い丈夫な木を育て、林床を明るくして下草を育て、元気な緑で覆うことで、保水効果や土砂流出防止機能、CO<sub>2</sub>の吸収による地球温暖化防止に繋がるものと確信している。とは言え、斜面緑地の管理は、不確定要素が多いため容易ではない。

もちろん土層が深く土壌が安定した場所では500年、1,000年を超える古木がふさわしい。

営利を求めない情報・技術・行動力を持ち小回りが利くNPO等による緑地保全活動集団と、行政や業者の機能を協業させる『緑地保全協業バンク（仮称）』の設置を提案する。

バンクは、NPO等のボランティア、県、業者等が連携し、素人、セミプロ、専門家、それぞれが提供出来る事と求めることを組み合わせるための窓口であり、仲介役となる。

中でも行政には、地権者、周辺住民への説明、制度の調整、協力事業者への実費の支払、セミプロやボランティアの応援参加を容易にするための道具や交通費の支給など、資金を作る事も視野に入れて考えて頂きたい。

鎌倉の社寺は谷戸や山裾に在り、後背林の多くは保安林や6条地区などの法規制が掛かっている。鎌倉の風景には、お寺や神社の裏山が欠かせない。しかし手を入れておられる所は非常に少ない。鎌倉は市民のためだけではなく、鎌倉を訪れる方々にとっても掛替えのない場所である。鎌倉の歴史、文化、景観をつくり、守ってこられた寺や神社に、後背林を守ることの大切さを再認識して頂く機会にする意味も有り、所有面積に応じた緑地管理料を拝観料から納めていただき、それを山の手入れの支援金とすることを提案する。

われわれは、北鎌倉の山ノ内地区で地域の方々と関わりながら、細々ながらではあるが、これまで同様、活動を続ける所存である。

については、県の理解と支援を切に願っている。



左：北鎌倉にある東慶寺、本堂  
右：東慶寺全体

## アンケート回答：第21回：環境への配慮

FSC では、森林管理のあり方を「環境・経済・社会」の点から矛盾なく進めることを要求している。当会は、社会の要求が奈辺にあるかを知るためにアンケート調査を実施した。

質問：森林の多様性にどのように取り組んでいるかをお知らせください。 (活動会員)

回答：認証準備のために「生態系3ケ年調査」を以下のように進めました。

2002年度 基礎調査 主要な生物種の把握(種リスト及び分布図)

2003年度 環境評価 貴重種の生育・生息状況及び保全対策

2004年度 施業計画 保全ガイドラインの策定

- ・この調査の過程で一般に言われる「針葉樹は広葉樹より生態系は貧しい」という通説は必ずしも正しくないことが分かりました。当会の森林では、針葉樹の森と広葉樹の森は夫々に甲乙つけがたく豊かと言う結果が出ました。
- ・また、西会員が蜜蜂を飼うと花が咲き、実がなり、鳥が来て種を撒き植物が豊かになると申し出てくれたので、積極的に取り組みました。森は、その通りになりましたし、ここで収穫した極上の純粋蜂蜜は、会員に格安で分けて活動費の足しになると言う副産物もありました。
- ・間伐をすれば、林間に陽が入り植生が豊かになる事を意識して、木の込み合う4地区を県との契約・協力協約で5年間かけて整備を進めました。その地区は今は、青々と明るい豊かな美林になっています。
- ・最近、羊歯に詳しい高栄さんが調べた結果、この森に86種の羊歯が見つかりました。種の分らない珍しい羊歯もあるそうです。ここ森の土壌・地形などの特殊性から、そうなるのだろうということでした。
- ・佐々木さんは昆虫にやけに詳しく、ファールブル佐々木と言う名で呼ばれています。昨年夏から参加の桜井教授は、巻き枯らしと言う間伐に替わる森林整備手法の研究とモニタリング実験に取り組んでおられます。この研究から全く新しい学説が生まれるかも知れません。
- ・武蔵工大の青地さんは、巻き枯らしをテーマに穿穴虫との関係を卒業論文にしました。

当会会員は、森林には殆どが素人ですから、大学のような専門的な掘り下げは困難ですが特に、なになにが得意、あるいは特別の感心があると言う人がいれば、積極的に会として応援することにしていきます。その結果、いろんな成果に繋がっています。ここでは活動に参加する人も多様なように森は、平地・軟斜面・急斜面、針葉樹林・広葉樹林と多様で生態系も極めて豊かな森になっています。

9月16日に佐々木さんが持ってきてくださった鉢



・・・若柳嵐山の森に関する情報は、当会のHP：[midorinodam.jp](http://midorinodam.jp) をご覧下さい。

## 10月の森林広報：予告

### 1、第四回：川崎ネイチャーフェスティバル：10月7日（日）

第2回目から参加している川崎市の鶴見操車場跡地でのこの森林活動は、川崎市で活躍する、「NPO 幸まちづくり研究会」と共催している。今年は、水源地相模原市と水消費地川崎市を繋ぐことをテーマにして取り組んだ。神奈川県も今年から「水源環境の保全・再生政策」を始めており、草の根・市民の立場から、少しでもこの政策を下支え出来ればと思っている。

### 2、さがみはら市民活動フェスタ07：10月20日（土）

#### 「相模原の自然環境・保全・再生を考える」

相模原市内の環境保護団体を糾合して、開催する。主催者の「NPO 法人自遊クラブ」は、このシンポジウムを経済活動によって失われた自然環境を取り戻すことを目的とした「自然再生促進法：02年度発効」への取り組みの手掛かりにしたいとしている。

自然再生促進法の取り組みは、極めて大きな仕組づくりであり、市民団体が発案することは稀で、これが動き始めれば社会的に多くの反響を呼ぶことになるだろう。

#### お知らせ・お願い

事務局

- 1、雨でも休まず・・・、と続けてきましたが、去る9月4日の経営会議で、さすが台風の直撃する日は、余りにも無謀・無責任との動議がありました。全くです。  
そこで、朝6時の「天気予報で警告の出た場合は、**正規の活動は中止**」としますが、休みにはカウントしません。自己責任で活動することは自由です。
- 2、森に、**私物を置かないで下さい**……。所有者不明の雨具・寝袋・私物ノコ・鎌などが物置に突っ込んであります。片付けに手を取られて困っています。過日、私物らしきものは、モマハウスに移しました。12月末まであずかります。それ以後の残存物は処分します。

活動のモットー：急がず、楽しく、無理せず、休まず、ポチポチと・・・・・・  
そして、沢山の参加で森は良くなる。

名 称：特定非営利活動法人緑のダム北相模  
事 務 局：154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9  
発行人：石村 黄仁 T&F 03-3411-1636  
H P：http://midorinodam.jp  
E-mail：[info@midorinodam.jp](mailto:info@midorinodam.jp)

協働団体：神奈川県（企画部土地水資源対策課、環境農政部森林課、県北地域県政総合センター）、セブニーレブンみどりの基金

ご支援の団体：WWF・japan, イオン財団、市民社会チャレンジ基金 神奈川建具組合 東急コミュニティ